



Walk with Children

めぐろ



せいび

212 号
2025 年 5 月

「青葉若葉に 風香りて せせらぎに聞く 奇しき調べ～」

(カトリック聖歌集より)

校長 シスター小島 理恵

吹き抜ける風が心地よく感じられる 5 月がやってきました。若葉の緑も太陽の光を浴びて日に日に色を濃くし、いのちの躍動を感じる素敵な季節です。

カトリック教会では、5 月を聖母マリア様を称える月「聖母月」と定めており、創立者ドン・ボスコも、マリア様に祈り、寄り頼むことを少年たちに教えていました。それは、マリア様が私たちの祈りを神様に取り次いでくださるという信仰と確信によるものでした。

今、世界経済は大混乱に見舞われています。自国の利益のみを求めることに固執し、共に支え合って生きるという、人として大事なことを忘れてしまっているようです。この先どうなるのか不安を抱えている国や数えきれない人々の叫びを思うと、心が痛みます。このような状況の中、未だ戦争や内乱の終わりが見えない国々ではすべてを失い、日々、「今日」を生きることに精一杯になっている方々、特に子ども達は、どれほどの恐怖、悲しみ、苦しみ、痛みを味わっていることでしょう。世界の平和、全ての人の幸せを願い続け、神様のみもとに帰られた教皇フランシスコの思いを受け継ぎ、この 5 月、世界に真の平和が一日も早く訪れるよう、皆で心を合わせて祈りを捧げましょう。今月 22 日には、学校で「聖母祭」が行われます。目黒星美全員で心を合わせ、熱心に祈りをささげたいと思います。

ドメニコ・サヴィオの記念



副校長 細谷 勇太

学校では、新しい学年のスタートに、クラス目標や個人目標を立てました。子ども達にはそれぞれ、こんなことがしたい、こんな生活を送りたい、みんなの中でこうありたい、こんな人になりたいと、いろいろな思いがあることに気づかされます。

私たちの学校にはサレジアン先輩方がいらっしゃり、子ども達のよいお手本として紹介しています。そんな先輩方の中で、ドン・ボスコの生徒であった聖人ドメニコ・サヴィオの記念を 5 月 6 日に行います。

ドメニコは、「僕が聖人になれるように助けてください」とドン・ボスコに自分の目標を打ち明けました。するとドン・ボスコは、食事をパンと水だけにして我慢したり、硬い石床の上で夜寝たりと、いろいろな苦行をして神様に身を捧げるドメニコに、それを止めさせて、「いつも喜びを保ち、朗らかでいること。勉強と信心の務めを熱心に果たすこと。皆に親切にし、友だちを助けること。」と勧めます。ドメニコは、これらの勧めを「聖人になる」という目標のために一つひとつ頑張って実行しました。

「目標」というと、自己の成長や達成することに目を向けがちです。もちろんそれも様々な動機づけとして大切でしょう。しかし、ドメニコから学ぶ「目標」の位置づけは、自分が実現させたい未来を指すのではなく、自分らしい生き方、真の自分の姿を追求することを指していると考えられるのではないのでしょうか。キリスト教的な価値観に基づいて自己形成をしていく子ども達の「自分らしさ」の実現を、十年後、二十年後…に見ることができたらうれしいです。

入学進級の喜び

2年生の声

うれしかった1年生のにこにこ

2年生

わたしは1年生にメダルをつくってかけてあげたことがうれしかったです。どうしてうれしかったかというと、じぶんがつくったメダルをあげて、1年生がにこにこえがおだったからです。たいめんしきではとてもドキドキしました。けれど、にこにこえがおの1年生のかおを見て、ドキドキがなかったようにすつきえました。わたしが入学したときはドキドキしていたけれど、ことしの1年生はにこにこのえがおがあるので大じょうぶです。これから1年生のえがおをみまもってあげたいです。

6年生の声

清明

6年生

すがすがしく明るい空気に満ち溢れる日、私達は6年生になりました。

私達が1年生の時は、6月の入学式やオンライン授業、分散登校などで大変だったので、今年の1年生が体育館でたくさんの人にお祝いされる入学式ができて良かったです。

1年生がとっても可愛くて、一緒にいると自分も1年生に戻りたい気持ちにもなります。私のペアの男の子は、最初はおとなしい印象で、話しかけてもただうなずくだけでしたが、少しずつ緊張が和らいだのか声をかけると話してくれるようになりました。

これから最高学年として、低学年のお手本となっていつでも頼られる6年生になりたいと強く思いました。

4年生の声

4年生になって

4年生

私は、4年生で思いやりを大切にしたいです。他学年にも思いやりの心でせつしたいです。例えば、こまっている人がいたら自分から「大丈夫」と声をかけたいです。

3年生の時、こまっていることがあったら高学年の人たちに助けてもらっていたので、私も高学年として低学年の子がこまっていたら助けてあげたいです。

また、クラスのみんなのために時間を意識してすごしたいです。5分休みに次の授業の準備をしておき、チャイムが鳴ったら号令が出来るようにしたいです。

1年間、思いやりと時間を意識して高学年の自覚をもってすごしていきます。



保護者の声

木々が若草色に染まる頃、満開の桜に迎えられ、娘が目黒星美小学校の門をくぐりました。

最初は緊張した面持ちでしたが、6年生が手を取りご挨拶をしてくれている間に、表情が和らぎ笑顔溢れる様子にとっても温かな気持ちになりました。

入学式では、可愛らしい1年生の入場に目を細め、校長先生の愛情溢れるお言葉に親としての決意を新たに、在校生代表の歓迎の言葉に心打たれながら娘たちのこれからの成長を重ね、6年生の合唱では感動で胸がいっぱいになりました。

入学式から数日たち、少しずつ学校にも慣れ、学年問わずに新しくできたお友達の話や耳にすると御校3年生になる長女が1年生の頃に「友達100人できた!」と嬉しそうに話してくれた星美の子どもらしい話が思い出されました。

始まったばかりの小学校生活、愛情深く寄り添ってくださる先生方や優しいお友達と心身共に大きく成長し笑顔溢れる毎日を送れるように親として見守り支えていきたいと思ひます。